

あ と が き

平成12年11月初め、戎谷社長から電話があり、「来年5月に大竹組は株式会社として発足以来、ちょうど満50周年を迎えることになる。については創立50周年記念行事として社史を出版したいと思うので、編集を引き受けて欲しい」旨の依頼を受けた。

社長は、すでに具体的に構想を練っておられ、掲載項目、分類方法、レイアウト、予算等についても、かなり詳細な腹案をお持ちのようであった。

当時、私は会社を退職して5年が過ぎ、無為徒食にも飽き、無聊をかこつ毎日だったので、渡りに船とばかりに、「喜んでお手伝いさせていただきます」と返事したのであった。

あとで振り返ってみて、これは大変なことを引き受けてしまったと後悔したが、後の祭りだった。もちろん、本の出版とか編集についての経験や知識は皆無で、編集なんて他人の文章を切り貼りする作業だ、くらいにしか思っていなかった私である。

作業に着手してから気付いたのだが、何よりも大変なのが資料の収集であった。大竹組のような小さな会社では、社史の編集のもくろみなど当然あるはずがない。文書や記録等の保存が等閑視にされており、資料集めは困難を極めた。また私を除く編集委員は皆さんが現役の社員なので、会社の業務の傍ら、資料を集め編集を手伝い、さらに担当分野について、寄稿文などの原稿を書いてもらわなければならない、作業は長期にわたるものと予想され、平成13年5月発刊の目標達成は絶望的となった。

ところが、最初の構想では、昭和26年に株式会社に改組以後の「(株)大竹組50年史」ということだったのが、途中から現在の会社の前身である、大正12年創業の大竹組前史を含めた「大竹組80年史」としようとする案が浮上し、賛成者が多く、これに決定された結果、発刊は平成15年8月に延期されることとなった。最後の原稿が出来上がったのは平成15年10月であった。

本書の発刊に際して、元厚生大臣、森下元晴氏をはじめ諸先生方から丁寧なご祝辞を頂戴しました。深く感謝申し上げたい。

編集委員の皆さんには、会社の業務の合間に社史の編集に協力して頂き、感謝に堪えない。中でも岡田好二君は、町会議員在職36年の長期間にわたって培った幅広い人脈と、その抜群の行動力を生かして、会社の歩み、業績等の資料の収集、OB会の皆さんの履歴・写真・談話集めなどに尽力した。また菊谷章良君は、入社以来今日までの請負工事設計書、工事写真等を、克明に年度毎に分類し保管してきた。平成12年に社屋と倉庫を改築した際、保管文書の一部が散逸破棄する手違いがあったのは残念だが、本書の編集に大いに寄与した。

Jユニオンの岸 積氏と、教育出版センターの長谷川昌治氏には、一方ならぬお力添えを頂いた。心からお礼申し上げたい。

(株)大竹組80年史編集委員長 木 内 俊 雄